

話し合いが吉田寮での生業だ！

執行委員会

吉田寮は基本的にだれでも来れて、なんでもできる「自由な」場所です。吉田寮では問題が起きたら当事者間での話し合いで解決するという解決方法をとっていて、これを行う気がある人ならばだれも拒まない場所です。これは自分たちのことは自分たちで考え、運営するという「自治・自主管理」を実際に行うために決定の場から排除される人をできるだけなくすという意味を持っています。話し合う気さえあれば決定の場に加わることができる場だからこそ、自分たちのことを自分たちで考えることができるのだと思います。

例えば、吉田寮には大部屋（多目的ホール）がいくつかあります。ここは基本的にだれが何の目的で使ってもいい場所で、会議やら飲み会やら麻雀やら宿泊者の宿泊場所やら、いろいろな使われ方をします。すると当然、大部屋を使う人の中で問題が起き得ます。麻雀をやりたい人間と早く寝たい人間が同時に存在する空間。そんなときにどうやって解決するか？すぐに思いつく方法として、寮についてのいろいろに判断を下す（警察みたいな）組織を置いて、その組織の判断を仰ぐというものがあります。しかし吉田寮ではこのような組織は置いていないし、一般にこのような解決方法を好ましくないと考えています。というのも、今困っている当事者は麻雀を打ちたい人と、早く寝たい人であり、どうするのが一番二人にとってよいのかを判断できるのはその二人だと思うからです。同様のこととして、「一般」とか「常識」を持ち出して「こうするべきだ」という理屈もへんだと思います。なぜ私とあなたの間の問題を考えるとどこかの誰かの考えが力を持つのでしょうか。～がこういうからとかはナシにして二人がどうしたいのかをちゃんと考えませんか。そしてそれができるような場を作っていきたいと考えています。

とはいえ、この方法にも問題があります。冒頭で話し合いの原則は決定の場から排除されることをなくすためのものだと述べましたが、話し合いを基盤にするからこそ生じてしまう排除の構造があります。国籍や性別や年齢や性格、もしくは単純に数が多い／少ないなどによって意見を言いづらいと感じてしまい、理不尽に「自由」を害される（話し合う気はあるのに決定の場に関われない）人が存在することです。当然意見はいわれないと反映しようがないのだからこのようなことが起きるのは仕方がないと思う人もいます。ですが、意見を言いづらい人が生じる構造は確かにある（大部屋で飲み会をしているのに対して静かに寝たいと一人で主張するのは容易ではないだろう）のだから、それを意識することなしに「話し合いをする気はある」というのはなにか気持ち悪いと思います。

勘違いしないでほしいのは、ここで書いたのは両者が楽しく生活できるようにする方法であるということです。自主規制してだれにも迷惑をかけないようにするのは自分が楽しくない。かといって、自分は楽しんで、傍には不満を持ちながらもどうにもできない人がいる、というのもなんだか気持ち悪い。このどちらにも陥らないように、多少面倒でも話し合っ解決した方が楽しく過ごせるのではないかという話です。